

平成24年度実施施策に係る事前分析表

別紙1

(環境省24-7)

| | | | | | | | | | | |
|---|--|------|--------------|-----------------|-----------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------------------|---|
| 施策名 | 目標2-3地球環境保全に関する調査研究 | | | | | 担当部局名 | 研究調査室 | 作成責任者名 | 研究調査企画官 福島 健彦 | |
| 施策の概要 | 地球環境分野のモニタリングを推進するとともに、気候変動の影響及び影響に対する適応の情報収集・調査研究などを推進する。 | | | | | 政策体系上の 位置付け | 2. 地球環境の保全 | | | |
| 達成すべき目標 | 気候変動等の分野に必要な調査研究、監視・観測、基盤技術の開発、情報提供を推進する。 | | | 目標設定の 考え方・根拠 | 第3期科学技術基本計画(平成18年3月28日閣議決定) | | 政策評価実施 予定時期 | 平成25年6月 | | |
| 測定指標 | 基準 | 基準年度 | 目標 | 施策の進捗状況(目標) | | | | | 測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠 | |
| | | | 目標年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | | |
| 1 各種研究調査の推進・成果等の情報提供の進捗状況 | - | - | - | - | 成果の 施策への 活用 | 成果の 施策への 活用 | 成果の 施策への 活用 | 成果の 施策への 活用 | 成果の 施策への 活用 | 地球環境を保全し、環境と経済の統合された社会の実現のために、環境研究・技術開発の推進が必要不可欠であり、その重要性については第3期科学技術基本計画(平成18年3月28日閣議決定)においても指摘されており、地球温暖化防止等の分野に必要な調査研究、監視・観測、基盤技術の開発、情報提供を推進することとした。 |
| 2 地球環境保全試験研究費による業務終了翌年度に実施する事後評価(5点満点)で4点以上を獲得した課題数(4点以上の課題数/全評価対象課題数) | - | - | 各年で 50%以上 | - | 50%以上 | 50%以上 | 50%以上 | 50%以上 | 50%以上 | 地球環境保全試験研究費は、「研究成果の社会的・経済的・行政的価値」、「研究成果の科学的・技術的価値」等の研究成果の社会的価値に関する指標を用い事業終了後「事後評価」を外部評価委員会により実施しているため。 優れた研究であったと説明できる4点以上の課題が過半数を占めることが概ね国民理解を得られるラインだと考えられる。 |

| 達成手段(開始年度) | 補正後予算額(執行額) (百万円) | | 24年度 当初 予算額 (百万円) | 関連する 指標 | 達成手段の概要等 |
|--|----------------------|------|----------------------------|------------|--|
| | 22年度 | 23年度 | | | |
| (1) 地球環境戦略研究機関 拠出金 (平成10年度) | 500 (500) | 500 | 500 | 1 | <p><達成手段の概要> 地球環境戦略研究機関では、これまでの活動により築いたネットワークや知名度も活かしつつ、顕在化する環境危機に対してより迅速に取り組み、アジア太平洋地域の途上国をはじめとした各国政府、国際機関の環境政策に採用されるような研究成果を提示していくこととしている。さらに単なる研究のみならず、政府間の情報交換の促進や政策形成の支援といった、民間では実施できない高度な公共性および国際性を要する業務を進めている。このような活動を行うアジア太平洋地域唯一の国際的環境政策研究機関として、アジア太平洋地域の持続可能な開発に向けた取組みに貢献する研究をリードするため、拠出金により支援するものである。</p> <p><達成手段の目標> 地球環境戦略研究機関が実質的な国際機関としての地位を確立し、国際的なネットワークの形成の促進、国際世論形成に対する貢献などを通じて、地球環境問題に対し、我が国がリーダーシップを果たす上で重要な役割を担うこと。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 地球環境問題は、我が国の国際貢献が最も期待される分野の一つ。環境省としては、IGESが研究成果や提言を国際的に発信し、科学面から地球環境問題の解決に寄与していくことを期待。 我が国が、このように自国のみ利益を超えた公共・公益的な視点で積極的な国際貢献を行うことは、日本の国際的イメージアップと尊敬の獲得につながり、日本の大きな国益に合致し、施策の達成すべき目標に寄与する。</p> |
| (2) 地球環境に関するアジア 太平洋地域共同研究・観 測事業拠出金 (平成16年度) | 204 (204) | 194 | 182 | 1 | <p><達成手段の概要> アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)は日米韓等の拠出金により公募型の先進国・途上国共同研究の推進やセミナー等の開催による能力開発事業の推進を行う。対象案件は、国際公募した上で厳密な審査を経て政府間会合が承認し、その成果は政府間会合に報告される。また、本ネットワークによるセミナーや政策対話を通じて、参加国間の連携を強化するとともに、ウェブ、ニュースレター、研究報告書を通じた情報発信等を行う。</p> <p><達成手段の目標> 競争的資金を活用した効率的な採択を行い、途上国のニーズに応える形で、我が国の科学的知見を共有する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 競争的資金により地球環境に関する研究の促進、セミナーの開催、ウェブやニュースレター等による成果の情報提供が促進される。</p> |
| (3) 温室効果ガス観測技術衛 星「いぶき」による地球環 境観測事業 (平成23年度) 【関連:24-41】 | - | - | - | 1 | <p><達成手段の概要> ・「いぶき」後継機をはじめとする観測技術、モデリング技術を設計、開発する。 ・既存の技術と「いぶき」のデータ活用を始めとする人工衛星、地上等での直接観測技術及びモデリング技術を組み合わせ、森林インベントリを補完・検証する技術システムを開発する。 ・将来的なクレジット化、我が国の中長期目標達成への活用を視野に入れて、途上国における森林減少・劣化からの排出抑制(REDD+)活動の温室効果ガス削減・吸収効果を定量的・客観的に把握する。</p> <p><達成手段の目標> 観測システムの概念設計</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> REDD+に関するソフト、ハード面での情報収集を行い、最終的な観測システムの概要、必要なスペック、現状の観測機器の課題等をまとめ、今後の効率的な開発作業に資する。</p> |

| | | | | |
|--|----------------------|------------|------------|--|
| <p>地球環境保全試験研究費 (4) (平成13年度) 【関連:24-41】</p> | <p>314 (310)</p> | <p>302</p> | <p>270</p> | <p>1、2</p> <p><達成手段の概要> ・地球環境保全試験研究費(H13年度～) 関係行政機関及び関係行政機関の試験研究機関が実施する地球環境の保全に関する試験研究について、効率的かつ総合的な試験研究計画等の推進を図るため、環境省設置法第4条第3号の規定に基づき、関係予算を一括計上し、予算成立後関係行政機関へ移し替えることにより、試験研究の一元的推進を図るもの。</p> <p><達成手段の目標> —</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 本事業における研究は、中長期的視点も踏まえ、計画的・着実に進めるべきものであり、観測結果等の成果は、地球温暖化対策をはじめ地球環境政策の立案・実施に科学的基盤を与えるものである。</p> |
|--|----------------------|------------|------------|--|